

◆国語科◆

全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

全教科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、楽しい授業づくりを行う。

- ・「漢字タイム」では、言葉の意味を考えたり、文字をきちんと見たりする習慣をつけさせるようする。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<p>【国語科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科全体の正答率は、県正答率とほぼ同じである。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「読む」は県正答率をやや上回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「理由を挙げながら話す。」「聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する。」は、県正答率をやや上回っている。 (話す・聞く) ・「メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く。」は県正答率を大きく上回っている。 (書く) ・「叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える。」は県正答率を大きく上回っている。(読む) 	<p>【国語科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無解答率は、県平均よりやや高い。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書く」「知識・理解・技能」は県正答率をやや下回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目的に応じて、内容を明確にして書く。(内容の中心・要点をつかみ、見出しを選ぶ問題)」は県正答率を大きく下回っている。 (書く) ・「事実と意見を区別して読む。」は県正答率を大きく下回っている。 (読む) ・「文の中における主語を捉える。」は県正答率をやや下回っている。 (知識・理解・技能) ・「漢字を書く(特に熟語)」「漢字のへんについて理解する。」「ローマ字を書く。」は県正答率をやや下回っている。 (知識・理解・技能)

《第6学年について》

成 果	課 題
<p>【国語科全体を通して】</p> <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書く」は県正答率をやや上回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図表やグラフなどを用いた目的を捉える。」は県正答率をやや上回っている。(書く) ・「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える。」は県正答率をやや上回っている。(書く) ・「目的や意図に応じて、自分の理由を明確にし、まとめて書く」は県正答率をやや上回っている。(書く) ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う。」は1問だけ県正答率を上回っている問題があった。(言語についての知識・理解・技能) ・「目的に応じて、文や文章全体を概観して効果的に読む。」は県正答率をやや上回っている。(読む) 	<p>【国語科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科全体の正答率は、県正答率をやや下回っている。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く」「読む」「言語についての知識・理解・技能」は県正答率をやや下回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う。」は、2問は県正答率を下回っている。(言語についての知識・理解・技能) ・「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。」は県正答率を下回っている。(言語についての知識・理解・技能) ・「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。」は県正答率を下回っている。(読む) ・「目的に応じて、質問を工夫する。」は県正答率を下回っている。(話す・聞く) ・「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。」は正答率を下回っている。(話す・聞く) ・「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。」は正答率を下回っている。(言語についての知識・理解・技能)

全校で取り組みたいこと

- ・主語、述語、修飾語などの文法や漢字のへん、つくり、ローマ字等の語句に関する知識についての定着を図る。また漢字の読み、書きにも引き続き取り組む。
- ・漢字や、言葉は作文などの中でも活用させ定着を図る。
(漢字タイム等の朝の時間の活用、家庭学習での定着)
- ・国語科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、楽しい授業づくりを行う。

◆算数科◆

全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

全教科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、楽しい授業づくりを行う。

- ・算数的活動（具体物の計算や操作など）を意識して取り入れ、児童の学習の理解を深める。
- ・「すすくタイム」（5・6年）と家庭学習を連動させ、「活用」に関する問題への指導を行っていく。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<p>【算数科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数全体の正答率は、県正答率とほぼ同等である。 ・無回答率は、県正答率とほぼ同等である。 <p>【領域別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数量関係」は、県正答率を大きく上回っている。 ・「図形」は、県正答率をやや上回っている。 ・「数と計算」は、県正答率とほぼ同等である。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解は」、県正答率をやや上回る。 ・「考え方と技能」は県正答率とほぼ同等である。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配法則は、県正答率を大きく上回っており、「十分達成」の基準と同等である。（数量関係） ・四則が混同した、（ ）を用いた計算では、県正答率を大きく上回り、「十分達成」の基準も大きく上回っている。（数量関係） ・1/100の位までの少数の下方の計算では、県正答率と同等で「十分達成」の基準をやや上回っている。（数と計算） ・展開図を組み立ててできる立体の面の位置関係に関する設問では、県正答率と同等で、「十分達成」の基準とも同等である。（図形） ・ものの位置の表し方の設問では、県正答率と同等で、「十分達成」の基準とも同等である。（図形） 	<p>【算数科全体を通して】</p> <p>【領域別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「量と測定」は、県正答率を大きく下回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・m^2で表された面積をcm^2で表すことは、県正答率を大きく下回っている。（量と測定） ・示された情報を基に、調べたり、求め方を説明したり、考えたりすること（大問5、大問10、大問12）はともに大きく下回っている。（数と計算）（量と測定）（図形）

《第6学年について》

成 果	課 題
<p>【算数科全体を通して】</p> <p>【領域別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数量関係」は、県正答率とほぼ同等である。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての知識理解は、県正答率をやや上回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「台形について理解している。」は、県正答率をやや上回っている。 (図形) ・「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。」は、県正答率をやや上回っている。 (数学的な考え方) ・「示された除法の式の意味を理解している。」は、県正答率を大きく上回っている。(知識・理解) 	<p>【算数科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数全体の正答率は、県正答率をやや下回っている。 <p>【領域別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」は、県正答率をやや下回っている。 ・「量と測定」は、県正答率をやや下回っている。 ・「図形」は、県正答率をやや下回っている。 <p>【観点別では】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方と、数量や図形についての技能は、県正答率をやや下回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。」は、県正答率を大きく下回っている。(技能) ・「示された計算の仕方を理解し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。」は、県正答率を大きく下回っている。(技能) ・「示された計算の仕方を理解し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。」は、県正答率を大きく下回っている。(技能)

全校で取り組みたいこと

- ・基礎的な計算力の向上に引き続き取り組む。(すくすくタイム等の朝の時間の活用、家庭学習での定着)
- ・算数科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、楽しい授業づくりを行う。

◆意識◆

全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

全教科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、楽しい授業づくりを行う。・児童の家庭生活の状況を踏まえ、実態に応じた家庭学習の出し方（質・量など）を小学部会で話し合う。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学校へ行くことは楽しいと思う。落ち着いて勉強ができていると思う。児童は多い。・午後9時より前に寝ることができている児童は県平均より高い。・スマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っているかは県平均より高い。・学習課題には、自ら考え取り組んでいると思う児童は県平均より高い。・問題の解決に向けて、話し合ったり発表したりすることは県平均より高い。・授業の最後に振り返る活動をよく行っていると思うは県平均より高い。・学習（国、算、社、理）が、将来、社会に出たとき役に立つと思っている児童がほとんどである。	<ul style="list-style-type: none">・平日の家庭学習の時間は60分をこえる児童は県平均より低い。・週末（土日）の家庭学習は30分未満が多い。学習時間は、県平均より低い。・テレビを見る時間、ゲーム、インターネットをする時間は、県平均より高い。・スマートフォン、携帯電話の所持率が高い。・ニュースを読んだり、見たりする。週末に家族と過ごすは、県平均より低い。・授業の中で目標を示されていると思うと児童がほとんどだが、そう思わない児童も少しいる。・授業の中で、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う児童が県平均より高い。

《第6学年について》

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ行くことは楽しいと思う。落ち着いて勉強ができていていると思う。児童は多い。 ・自分で計画を立てて勉強している児童は、県平均より多い。 ・将来の夢や希望をもっている児童は多い。 ・ものごとを最後までやりとげてうれしかった児童は多い。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っっている児童は70%ほどで、県平均とほぼ同じである。 ・授業で学んだことを、ほかの学習にいかしていると思っっている児童は85%ほどで、県平均とほぼ同じである。 ・学習が、将来、社会に出たとき役に立つと思っっている児童がほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝食を食べている児童は県平均よりやや少ない。 ・平日の家庭学習の時間は60分をこえる児童は県平均より低い。 ・平日に60分以上読書をしている児童は、20%ほどで県平均とほぼ同じである。 ・学校のきまりを守っているに、あてはまると答えた児童は県平均より少ない。

全校で取り組みたいこと

- ・家庭教育の指針等を活用し、家庭での生活習慣について、家庭の協力を得て、家庭学習の習慣化を引き続き図る。
- ・テレビ、ゲーム、スマートフォンについては、家庭でのルールを確認してもらう。学校でも、学校だよりや学活などで、情報モラルについて考える。
- ・全教科において、「めあて」「まとめ」などの流れを意識し、問題解決学習などを取り入れ、児童同士が交流し合う場を大切に、楽しい授業づくりを行う。